



雪華
vol.21
2022.9.30

巻頭言

一炊の夢

新潟と言えば「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」の川端の「雪国」の冒頭を思い出します。初めて新潟を訪れたその日、清水トンネルを通り抜けると雪が舞っていました。これまで見たこともない雪景色はまるでおとぎの世界に来たかのような感じでした。あの日から 50 余年が過ぎ去ってしまいました。まさに行春哀歌の一節「足音もなき刻の舞い」のように膨大な時間が静かに過ぎ去ったのです。遥か昔のようにも思われますが、記憶は鮮明で、学食や木造の階段教室、シベリア坂、ワルツ坂、古町通りなど昨日そこを歩いたかのようにありありと思い出せます。

九州より 1000 km も離れた亜熱帯に属する沖縄から来た者には全てが新鮮で興味を誘われました。何と言っても雪が降るといふ現象です。空からカキ氷のようなものや綿に似た白いものが降りてくるのですから。シベリアおろしに交じる雪の日は取り分け寒かった。そんな時は喫茶店で暖を取るのが常でした。古町通りに「白鳥」という名曲喫茶店があり、コーヒーを啜りながらクラシックを聴き、読書をしたものですが、学生的身ではそれが最高に贅沢なひと時でした。四季の変化に乏しい南国育ちには季節の移り変わりは楽しいものでした。春を迎える喜びを歌った「どこかで春が♪」や「春の小川♪」の歌詞を真の意味で理解できましたし、秋の紅葉の美しさを描いた「もみじ♪」や「小さい秋みつけた♪」もしかりです。

70 年代は変化に富んだ時代でした。浅間山荘事件に代表されるように学生運動が盛んで、大学封鎖、教授の吊し上げや団交なども盛んで、情熱溢れるガッツのある学生が多かったのだと、今にして思います。沖縄の学生にとっての変化は何と言っても 1972 年の沖縄返還です。パスポートが廃止され、出入国管理事務所での面倒くさい手続きがなくなり、日本人になれたという実感を強くしたものです。しかし米軍基



全学同窓会 沖縄支部

伊禮 昭洋

歯学部 1973 (昭和 48) 卒

地はそのまま存続され、飛行機の墜落事故や米軍人による犯罪、空軍基地近くの騒音被害等も頻繁で、本土とはかなり異なるのが現状です。最近の中国の動きも心配で、基地故に真っ先にターゲットになるのではとの不安は払拭できません。

少し愚痴っぽくなってしまいましたが、青春時代を新潟で過ごせたのは本当に幸せでした。日本のほぼ中央に位置しているせいか東西南北各地より学生が集まり、様々な個性ある人たちとの出会いがもてたのは貴重な体験でした。当時はそれほど大切な時間だとは気づかず、深く付き合いもせず別れたことが悔やまれます。古町の喫茶店で、流れていた曲が印象に残っています。ガロの「学生街の喫茶店」でした。その歌詞の中に「～学生で賑やかなこの店の片隅で聴いていたボブ・ディラン。あの時の歌は聞こえない。人の姿も変わったよ。時は流れた♪」とあって、卒業して数十年経てこの喫茶店でこの曲を聞くことがあるだろうかと想像したものでした。足腰が弱らない間にあの懐かしい古町でコーヒーを啜ってみたいと思います。きっと夢多きあの若き日が蘇ってくるに違いありません。心残りはお世話になった先生方に卒業後一度もお礼を申し上げなかったことです。最早多くの方が鬼籍となってしまうました。新潟大学で技術は無論ですが、高貴な人格の先生方とのふれ合いから多くを学びました。それは私達の人生の大きな指針となりました。ここに改めてお礼申し上げますとともに、新潟大学のますますの発展を祈念致します。

CONTENTS

i 巻頭言 一炊の夢

ii～v 特集 工学部創立100周年

vi ●最新研究・新潟大学Hot Research ●2021年度 全学同窓会雪華支援事業 ●令和2年度会計報告

vii ●賛助会費について ●「新潟大学カード」入会のご案内



100周年を 迎えるにあたって

工学部同窓会理事長 1977(昭和52)年卒
寺尾 正義

新潟大学工学部は大正12年(1923年)に発足した長岡高等工業学校を前身とし、令和5年に創立100周年を迎えます。この間様々な苦難の時期もありましたが、約3万人もの有為な人材を世の中に輩出してきました。こうして100年の節目を迎えることが出来るのも、夫々の時代の先輩諸氏が頑張ってくれた

おかげ、と感謝しております。

さて工学部の歴史は大きく、長岡に工学部があった時代(1923年~1979年)と新潟移転以降(1980年~)に分けられると思います。私は長岡時代の最晩期に在学しており、2年時には悠久寮に、3年時から悠久山通りの中沢町に下宿しておりました。冬には

Graduate Message

ものづくりへの探求心

廣瀬 千晶

大学院自然科学研究科 博士後期課程1年 工学部2020(令和2)年卒



新しい技術に触れ、それらを作り上げる研究者になりたいと思い、電気電子工学科を選びました。学部時代を振り返ると、1年次後期から専門授業が始まり、同じ学科の仲間とも親交を深め、同じ志を目指す人と出会いました。2年次では学生実験を通して、工学技術の議論や考察を行い、自身の知識の幅を広げることが出来ました。3年次には、線に沿って走るラインレースカーを製作しました。初めての本格的な工学製作で悪戦苦闘をしましたが、チームのメンバーとアイデアを出し合い、一つのものを作り上げる楽しさを味わいました。男性が多い環境でしたが、同じ志を持つ仲間と意見を交わし合い、私自身の新たなアイデアを生み出すきっかけを得ました。私は現在重力波望遠鏡KAGRAと共同研究を行い、重力波検出技術の向上を進めております。仲間と議論する面白さ、ものづくりの楽しさを学部時代に学び、この経験は今の研究にも活かされています。

新潟大学で得たこと

小林 嵩季

大学院自然科学研究科 博士後期課程3年 工学部2018(平成30)年卒



2014年4月に新潟大学に入学してから9年目を迎えました。その間、博士前期課程、博士後期課程に進み、現在まで機械工学を基盤とした流体工学に関する研究を行っています。大学に入学した直後は将来の目標も不明確で、漠然とした不安がありました。4年次に配属された流体工学研究室でファイナブル(目に見えない微細気泡の総称)と出会いました。研究を通して出会った先生や友人との研究生活はとても楽しく、未知の領域への挑戦や応用に向けた大学内外の方々との協同、実験の方法や結果に対する考察・議論は刺激に満ちており、ついつい時間を忘れてしまいます。来年度からはこれまで続けてきた研究テーマに関係する仕事に就く予定です。一生をかけてやり遂げたい研究と出会い、研究で社会に貢献する道筋をつけていただいた新潟大学に感謝しています。工学部は来年で創立100周年を迎えるとのことでした。伝統ある工学部、そして新潟大学の出身者として誇りを持って生きていきたいと思っています。

令和5(2023)年に工学部は前身校の設立から数えて100周年を迎えます。新潟大学は、昭和24(1949)年に前身の旧医科大学、旧制高校、師範学校、旧専門学校等を統合して設立されました。工学部も当時は前身校の校舎を引き継いだため、五十嵐地区への移転まで所在地は長岡市にありました。本特集は、100周年の節目にあたって、前身校を含めた長岡時代の工学部にも焦点を当てます。

大雪が降って寮や下宿の雪下ろしを行い、夏には長岡の花火も見ることが出来ました。木造校舎で冬は隙間風が冷たかったけれど、今では良い思い出になっています。約3万人の卒業生も長岡と新潟で半分ずつということもあり、工学部の記念式典は新潟市内で、同窓会の総会は長岡市内で行う予定です。

さて、昭和、平成、令和と時代が進む中で、工学部に要求される事柄も変化してきました。高度成長期にはインフラ整備やモノづくりに力点が置かれ、これを推進するための技術者が数多く要望されました。新潟県でも他に先駆けて1982年に上越新幹線が、1985年には関越自動車道が開通しました。そして多くの先輩方が首都圏に行って活躍しました。

しかし平成になりバブルが崩壊し円高が進むと、グローバル化の波が押し寄せて、各企業も海

外に数多く進出するようになりました。技術者も海外赴任が多くなり、英語や中国語などの語学や、異文化の中で生活する適応力、コミュニケーション能力を要求されるようになりました。

そしてインターネットが一般に普及すると、工場ではモノとインターネットを繋ぐIoTが盛んになり、無人工場を目指すようになりました。そして最近では地球温暖化を要因とする様々な自然災害が発生し、カーボンニュートラルやSDGsへの対応が大きな課題となっております。

このように世の中は時代によって変わっていきませんが、これらの課題を具体的に実現するための人材、すなわち工学を学んだ人材は益々要求が強くなることでしょう。新潟大学工学部に置かれては、今後も教育に力を尽くしていただき、未来を担う若者を育てていただきますよう期待しています。

ご寄附のお願い

100周年記念事業の柱として、みなさまからの募金を原資に、工学部の「教育研究支援基金」を創設いたします。詳しい内容は新潟大学工学部同窓会のHP (<https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~yukyukai/>) をご覧ください。ご寄附にあたっては下記の「新潟大学基金」HPより、お申し込みください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/foundation/>

[寄附の申し込み](#) → [寄附お申し込みフォーム](#) にお進みください。みなさまのご協力をお願い申し上げます。

沿革

History

- 大正 12(1923) 年 12 月
長岡高等工業学校創設
- 昭和 19(1944) 年 3 月
長岡工業専門学校校名改称
- 昭和 24(1949) 年 5 月
国立学校設置法公布、新潟
大学設置、長岡工業専門学
校は新潟大学（工学部）に
包括（機械工学科、精密機械工学科、電気工学科、工業化学科）
- 昭和 25(1950) 年 4 月
精密機械工学科を精密工学科に改称
- 昭和 35(1960) 年 4 月
化学工学科設置、工業化学科を応用化学科に改称
- 昭和 38(1963) 年 4 月
電子工学科設置
- 昭和 41(1966) 年 4 月
大学院工学研究科設置
- 昭和 42(1967) 年 4 月
土木工学科設置
- 昭和 52(1977) 年 4 月
情報工学科設置
- 昭和 54(1979) 年 5 月
長岡市から新潟市五十嵐 2 の町に移転（第 1 次移転）（電気工学科、
電子工学科、情報工学科、応用化学科、化学工学科、共通講座）
- 昭和 55(1980) 年 5 月
長岡市から移転完了（第 2 次移転）（機械工学科、精密工学科、
土木工学科）
- 昭和 56(1981) 年 4 月
建築学科設置
- 平成元(1989) 年 4 月
全学科改組（機械システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、
化学システム工学科、建設学科、共通講座（共通講座は平成6年
3月まで））
- 平成 6(1994) 年 4 月
機能材料工学科設置
- 平成 7(1995) 年 4 月
大学院工学研究科を大学院自然科学研究科博士前期課程に転換
- 平成 10(1998) 年 4 月
福祉人間工学科設置
- 平成 17(2005) 年 4 月
附属工学力教育センター設置
- 平成 29(2017) 年 4 月
工学部の既存の 7 学科を改組し、工学科を設置
- 令和 5(2023) 年
創立 100 周年



設立の背景

Background

明治中期の石油事業に誘発され、石油資源に恵まれた長岡では石油採取・精製に必要な鉄工業・機械工業が勃興しました。運輸交通の要所にあり、水力による十分な電力供給もあることなどから、石油事業が衰微した後も生產品の転換等によって長岡の工業は発展しました。第一次世界大戦の直後から高等教育が拡充され、各地に高等学校や高等工業学校が新設されました。工業都市をめざす長岡市も内務省および新潟県知事に対して「意見書」を提出し、設置に必要な経費の地元負担を申し出るなど、熱意を示しました。意欲的な誘致運動が奏功し、大正9(1920)年に設置が認められ、同12(1923)年に全国で16番目の国立高等工業学校として長岡高等工業学校は設立されました。



玄関外観

戦争の影響

Effects of war

昭和12(1937)年に日本は中国と戦争状態となり、その後、昭和16(1941)年には太平洋戦争に突入しました。戦時一色となった昭和19(1944)年3月に校名は長岡工業専門学校に改められました。学生は軍事訓練、勤労奉仕に多くの時間を割かれ、遂には学徒動員によって戦場に赴く者、工場で軍需生産に従事する者が続出し、多くの犠牲者を生む結果となりました。昭和20(1945)年8月1日の大空襲により、長岡市の8割は灰燼と化しましたが、幸いにも校舎は焼失を免れました。



軍事訓練

未来につながる学生時代



写真提供：新潟市

--大学時代に専攻された分野は何ですか？
 応用化学科で、分析化学を専攻していました。卒業研究では、新潟市内を流れる新栗ノ木川の河底土砂に吸着する金属類について分析を行いました。

--理工系の出身者として、行政のお仕事に役立つことはありますか？

行政では、もちろん、それぞれの分野の技術職を募集・採用していますので、専門を活かした仕事ができます。私は新潟市役所に事務職として採用されましたが、どんな仕事でも、さまざまな分野、多様な能力のある人たちが関わることで、よりクオリティの高い結果を出すことができるということを経験してきました。

--学生時代の思い出深いエピソードはありますか？

学生時代は、フェンシングに打ち込んでいました。同好会を立ち上げ学友会サークルへの認可を申請したものの、初年度は否決。翌年は各サークルに事前に理解を求めて回り認可されました。「根回し」という言葉も知らずにやったことでしたが、足を運び

野島 晶子

新潟市副市長 工学部1984(昭和59)年卒

顔の見える関係になって物事を進めることの有効性を実感しました。

--お仕事や行政の取り組みのやりがいについて教えてください。

行政の中でも市町村の仕事は、基礎自治体として住民の生活に最も密着しているものです。さまざまな立場の方と、直に接することで、過程から成果までを各段階において直に感じられることが、大きなやりがいです。

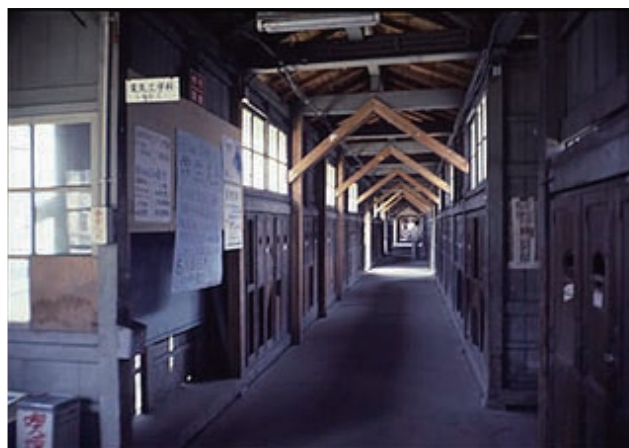
--令和5年に工学部は創立100年を迎えます。大学や学生に期待することはありますか？

創立100年の年に、このような機会をいただき光栄です。私は、1980年に工学部に入学しました。「リケジョ」なる言葉もない頃ですが、先生方や先輩、同級生に恵まれ、とても楽しい学生生活を送ることができました。自分がやりたいことを選択し学んだ経験は、専門分野の仕事に就いたとしても就かなかったとしても、人生のモチベーションにつながります。

キャンパスの移転

Transfer

昭和24(1949)年に長岡工業専門学校は、新潟大学工学部となりました。1960年代に分散立地していた各キャンパスの整備・移転構想が持ち上り、1965年2月に五十嵐地区への移転統合が決定されました。その時点で工学部は創立から40年以上が経過し、すっかり長岡市に根ざしておりました。愛着のある工学部の移転にあたって、多くの関係者や地元から反対の声も上がりましたが、約2年間をかけて五十嵐地区への移転が行われ、昭和55(1980)年5月に終了しました。移転後の発展は前ページの沿革・年表のとおりです。



工学部長岡校舎
百間廊下

創立100周年に寄せて

五十嵐 彩

ウシオ電機株式会社
工学部2004(平成16)年卒



2023年に工学部は創立100周年を迎えるとのこと、誠におめでとうございます。

2000年に入学した当時はなんとなく選択した電気電子工学科でしたが、多くの専門科目を受講するうちに、世の製品や技術の原理を知る面白さを知ることになりました。

修士課程ではヒューストン大学へ半年間留学して研究を行いました。これは、とても貴重な経験となり、自信に繋がりました。その後、就職して2年目のとき、恩師より博士課程の社会人入学制度をご紹介いただき、仕事を続けながら博士号を取得いたしました。現在は、産業機器メーカーでレーザー光源を搭載した検査装置の開発に携わっております。これほど長く工学と付き合うことになるとは思ってもみませんでした。大学時代の自己形成は人生を左右するイベントであると感じています。在校生の皆さんには、その時にしかできないことを全力でやり切って将来の糧にしてほしいと思います。

最後に、卒業生・修了生の益々のご活躍と工学部のさらなるご発展を祈念しております。

参考資料：新潟大学工学部五十年史、悠久会時報 59号、雪華 8号など

災害・復興科学研究所

ノルウェーで開催された大学院生向けの国際インターンシップ

ノルウェーのトロムソで2022年8月16日～25日の期間、GEOMME(自然災害に関する国際連携パートナーシップ)の国際インターンシップが開催され、本学からは災害・復興科学研究所の専任・兼任教員が研究指導する大学院生6名が参加しました。今回のインターンシップはGeohazards and risk in a changing climateと題し、大学院生は気候変動が自然災害の発生に及ぼす影響をトロムソ大学での講義と野外での実習を通じて学びました。GEOMMEは、気候変動にともなって変容する自然災害の予測、防減災の計画や対策技術、リスクマネジメントに関する研究・教育の国際連携プロジェクトで、多種の自然災害に対する気候の影響に関するモデリングやモニタリング等の共同開発、さらに研究者や大学院生への研修に向けた新たなカリキュラムの開発を目的としています。プロジェクトの実施期間は2021年10月～2026年9月で、参加国および参加機関は次のとおりです。

ノルウェー:ノルウェー地盤工学研究所(NGI)、トロムソ大学(UiT)

韓国:韓国地質資源研究所(KIGAM)、韓国科学技術院(KAIST)
日本:防災科学技術研究所(NIED)、新潟大学
2023年の国際インターンシップは日本で開催されます。

(准教授 新屋啓文)



野外での実習風景



本学から参加の大学院生

2021年度 全学同窓会雪華支援事業

2020年度は新型コロナウイルスの感染リスクを踏まえ、雪華支援事業を中止しました。しかしながら、このような状況だからこそ学生支援を続けてほしいとの卒業生からの声が多く寄せられました。全学同窓会としては、卒業生からの要望を重く受け止め、また、新型コロナウイルス対策が進展したこともあり、2021年度の雪華支援事業を実施し、13件の事業に支援しました。



雪華支援事業(A)

競技スキー部	インカレ男子2部昇格、インカレ女子1部昇格、全国国公立スキー大会・中部学生スキー選手権大会・全国学生岩岳スキー大会での上位入賞
陸上競技部	コロナ禍においても陸上競技部の活動の向上・強化に向けた遠征費や練習用具の補助について
探検部	安全なラフティング、クライミング、サイクリング、登山、洞窟調査をするための部の共同装備の充実、ラフティング世界大会出場に向けた練習やクライミング向上のための遠征費
ヨット部	国際スナイプ級新艇購入
邦楽部	第82回定期演奏会における楽器運搬等の開催費用
基礎スキー部	全国大会に向けて、個々のレベルの向上を図ると共に、チームとして取り組むうえで協調性を育む
吹奏楽部	演奏レベル向上のための備品購入および楽器の修理・調整
自転車競技部	第76回全日本大学対抗選手権自転車競技大会(インカレ)出場を目指した強化活動
卓球部	各種大会における活躍、春季北信越大会の運営などによる新潟県・市卓球連盟および北信越学連への協力、強化練習会のトレーナー派遣による新潟県のジュニアの強化・育成
バレーボール部	男子はインカレ出場を目指し、女子は決勝リーグ出場に向けて、より活発な練習を行うための用具購入費及び遠征などの強化費のため
合唱部	来年度の全日本合唱コンクールに向けた練習並びに新潟大学合唱団定期演奏会の開催
附属図書館(中央図書館)	学修環境整備のための電子ブックの拡充
附属図書館(旭町分館)	医学学系基礎科目(解剖学・生理学)の電子ブック(動画版)の購入

令和2年度会計報告 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

令和3年度第1回全学同窓会理事会(6月25日)において、2年度一般会計の監査結果報告が行われました。審議の結果、承認されました。

収入の部	費目	予算額(円)	実績(円)
	繰越金	1,675,312	1,675,312
	賦課金	270,000	270,000
	分担金	5,000,000	5,000,000
	協賛金	1,700,000	1,770,000
	一般広告掲載	300,000	300,000
	賛助会費	4,300,000	3,833,000
	受取利息	15	16
	合計	13,245,327	12,848,328

支出の部	費目	予算額(円)	実績(円)
	大学等支援費	0	0
	学生支援費	0	0
	周年事業基金	2,000,000	2,000,000
	広報紙	2,000,000	1,731,950
	会員等サービス事業	500,000	344,494
	事務局費	5,240,000	4,797,551
	予備費	3,505,327	397,300
	小計	13,245,327	9,271,295
	次年度繰越金	0	3,577,033
	合計	13,245,327	12,848,328

*大学等支援費及び学生支援費については、コロナ禍による行事の中止決定に伴い、予算の計上を見送りとしたものです。

あるばむステーション

すべての子どもたちにアルバムを。

あるばむ編集教室

Album ONLINE EDITING TOOLS

学校アルバムだけじゃない! 個人写真集など使い方もいろいろ

入稿から編集、校正まですべてオンラインで完結

博進堂の新しい
オンライン編集ツール
2022年9月
スタート!

博進堂

https://www.hakushindo.jp

賛助会費について

全学同窓会は、新潟大学の全同窓生及び教職員(OB含む)を会員とし、各種の事業(広報紙「雪華」の発行、雪華支援事業、新潟大学との交流事業及び支援事業など)に取り組んでいます。その財源は、会員の皆さまからの賛助会費であり、全学同窓会の事業はその善意によって支えられています。

今後も全学同窓会の目的に即した同窓会運営と事業活動に邁進してまいります。

会員の皆さまからのご協力をお願いいたします。

賛助会費の納入方法

賛助会費は、次の方法でお納めいただけます。
1口2,000円をお願いしています。

1.口座振替による方法

毎年1回(1口に限りませう)、ご指定の口座から引落しさせていただきます。

ご希望の場合は、「預金口座振替依頼書」を事務局までご請求ください。

2.郵便局からの振込みによる方法

郵便局から「払込取扱票」により、振込いただけます。「払込取扱票(払込手数料加入者負担)」が必要な場合は、事務局までご請求ください。

3.QRコード決済(クレジットカード払い)による方法

スマートフォンでQRコードを読み込み、必要な情報を入力して決済できます。



QRコード決済はこちらから

入会案内

“安心”と“信頼”を約束する頼れる一枚!
安全・安心・高品質なサービスで豊かなカードライフを

新潟大学全学同窓会

新潟大学カード



新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携し、同窓生の皆様のためのVISA国際カード「新潟大学カード(ゴールドプレステージ)」を発行しています。



新潟大学カードのご入会、ご利用による収益金は、母校新潟大学や後輩等のために、下記事業等に充てられます。

- ・新潟大学における全学的な学生活動への支援
- ・新潟大学における全学的な事業への支援
- ・新潟大学卒業生の全学的な活動の支援
- ・新潟大学全学同窓会の活動理念に沿った公共性・社会性の高い事業への支援

信頼と充実のMUFGカード

本人・家族会員 年会費無料
ETCカード無料発行

国内・海外旅行傷害保険(最高3,000万円)、ショッピング保険(年間補償限度額200万円)など、安心の各種保険を無料で付帯

新潟空港をはじめ、成田国際空港、中部国際空港、関西国際空港等、国内主要空港のラウンジを無料で利用可能

海外アシスタンスサービス
「ハローデスク」
日本語を話せる現地スタッフが皆様のご旅行をサポートいたします。

利用するほどにたまるポイントシステム
◆グローバルポイント
12か月のご利用金額1,000円ごとに、基本ポイントを1ポイント付与
◆グローバルPLUS
1年間のご利用金額に応じて、翌1年間、獲得ポイントを優遇

・豊富な支払い方法、充実のWEBサービス
・サポート体制も充実
スマートフォンアプリ、ゴルフデスク24時間健康・介護相談サービス等

卒業生必携の1枚です。皆さまのご入会をお待ちしております。

入会方法

- ・新潟大学カード入会申込書を「全学同窓会事務局」又は「卒業した学部同窓会事務局」までご請求ください。
- ・カード入会申込時には「ID」が必要です。新潟大学卒業生は「学部同窓会事務局」でその他教職員の方は「全学同窓会事務局」で発行します。
- ・新潟大学カード入会申込書にID及び必要事項を記入のうえ、「三菱UFJニコス(株)」へ郵送(料金受取人払)してください。

お問い合わせ

- ・全学同窓会又は卒業した学部の同窓会事務局までお問い合わせください。全学同窓会へのメールでのお問い合わせが便利です。

※ご注意

現在シルバーカードをお持ちの方は、そのまま使用できますが、海外旅行傷害保険、ショッピング保険は適用外となりますので、シルバーカード会員を退会し、ゴールドカード会員へのご入会をお願いします。なお、大学院に進学された方は、ゴールドカード会員へのご入会はできませんので、ご注意ください。

全学同窓会のメールマガジン

新潟大学と全学同窓会の最新情報をお届けします。
配信をご希望の方は、以下の要領でメールをお送りください。



メールのあて先 n-zendoso@adm.niigata-u.ac.jp

メールのタイトル 同窓会メルマガ配信希望

メールの本文

- あなたのメールアドレス(送信のアドレス)
- あなたののお名前 ● 卒業(修了)年と学部(研究科)



私たちは新潟大学を応援しています

令和3年度 協賛企業・団体 ※匿名希望3社2団体

アートホテル新潟駅前、株式会社アステック、株式会社アヅマテクノス、安藤医院、株式会社磯部ハイテック、エアプラック株式会社、金井度量衡株式会社、木曾医院、共立印刷株式会社、株式会社公文教育研究会、株式会社考古堂書店、株式会社コロナ、近野茂公認会計士事務所、サトウ食品株式会社、株式会社サンケイ情報ファシリティ、株式会社シンセンメディカルコミュニケーションズ、株式会社新宣、進展工業株式会社、信楽園病院、相互技術株式会社、医療法人高田西城会、一般財団法人竹田健康財団、田辺建設株式会社、株式会社新潟クボタ、新潟県信用組合、新潟県土地改良事業団体連合会、新潟信用金庫、新潟大学生生活協同組合、新潟ダイヤモンド電子株式会社、日東アリマン株式会社、日本精機株式会社NS悠久会、株式会社パイオニア、株式会社博進堂、株式会社畠山種苗園、浜野こどもクリニック、株式会社ひらせいホームセンター、新潟税理士法人深滝合同事務所、富士印刷株式会社、藤木鉄工株式会社、株式会社不二産業、北越工業株式会社、八洲設備工業株式会社、株式会社リンコーコーポレーション

全学同窓会ホームページ上でキャリア情報(中途採用)を掲載しています

敬称略(五十音順)

新潟大学からのお知らせ

大学院日本酒学コースを開設
一博士前期課程2022年4月・博士後期課程2023年4月ー

新潟大学では、2022年4月に大学院現代社会文化研究科(経済経営専攻)及び大学院自然科学研究科(生命・食料科学専攻)の博士前期課程に日本酒学コースを開設しました。日本酒という対象を共通の軸として、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰した内容で文理融合型の教育研究を行います。なお、博士後期課程の同コースについては、2023年4月開設予定です。

日本酒学コースで養成するのは、人文社会科学または自然科学の専門的知見及びその知見を活用する能力を有するとともに、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材(博士前期課程修了者)であり、さらに、国際性とリーダーシップを兼ねそろえた高度な専門性を有する人材(博士後期課程修了者)です。

日本酒学コースでは日本酒を対象としていますが、ここで修得した能力は多様な領域に展開できます。よって、日本酒学コースで輩出される人材は、醸造、流通、販売、商社等の日本酒業界にとどまらず、様々な分野での研究開発職、公務員、アカデミアでの研究者(博士後期課程修了者)としてや、コンサルティング会社、事業創造を含む未来産業分野等での活躍が期待されます。



新潟大学全学同窓会からのお知らせ

新潟大学・全学同窓会交流会

- 日時：令和4年10月15日(土) 15:30~17:00
※当日14:45から受付を開始します。
恐れ入りますが15:10までにご入場願います。
- 会場：ANAクラウンプラザホテル新潟 2F「芙蓉」
新潟市中央区万代5-11-20 TEL:025-245-3334
※会場の駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用願います。

【講演会】 定員150名 [入場無料]

記念講演 「新潟の酒はなぜうまい」

講師／渡邊 健一 氏

(石本酒造株式会社 常務取締役、新潟清酒学校校長)

●プロフィール●

1982年(昭和57年)東北大学大学院農学研究科前期課程修了(応用微生物学)。同年、国税庁醸造試験所(現酒類総合研究所)研究員。以後仙台、金沢、東京の各国税局鑑定官として酒類技術指導に従事。1991年(平成3年)新潟県醸造試験場主任研究員。2003年(平成15年)新潟県醸造試験場長。2016年(平成28年)石本酒造株式会社入社、現在に至る。その他、新潟県酒造組合新潟清酒学校校長。新潟薬科大学客員教授。新潟食糧農業大学客員教授。



新潟県醸造試験場で酒造場の技術支援の他、酒米「越淡麗」や新潟酵母の開発、酒造組合の大イベント「にいがた酒の陣」の運営に携わる。新潟大学農学部でも「酒と酒米」の講義を担当。

特別企画 「ミニ唎酒コーナー」

講師／新野 義弘 氏 (朝日酒造株式会社 総務部参与)

インフォメーション

【講演会の申込方法】

講演会参加希望 住所、氏名、電話番号、卒業学部(学科)卒業年をご記入いただき、メール・ハガキ・FAXで全学同窓会事務局までお申し込みください。

感染拡大防止の観点から、卒業生及び新潟大学関係者のみの参加とさせていただきます。

なお、後日、ホームページでオンデマンドによる配信を予定しています。

締め切り：令和4年10月6日(木)

申込先：新潟大学全学同窓会事務局
TEL 025-262-7891 FAX 025-262-7892
E-mail dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学全学同窓会

事務局：〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL 025-262-7891 FAX 025-262-7892
E-mail dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp
https://www.niigata-u-dousou.jp/

運営委員会広報部より：工学部は学内最大規模の学部で、卒業生数も31,000名を超えます。皆様の同僚やご友人、あるいはご家族・親戚にも工学部出身者がいらっしゃるかもしれません。長岡時代を知る教職員はすでに定年退職され、五十嵐移転後の卒業生も優に過半数を超えました。制度上、多くの国立大学の創立は昭和24(1949)年ですが、どの国立大学も前身校の校風や伝統・文化を少なからず引き継いでいるように見受けられます。工学部創立100周年は、新潟大学に関係する私たちをととも晴れやかな気持ちにさせてくれます。